児童養護施設８か所視察報告書

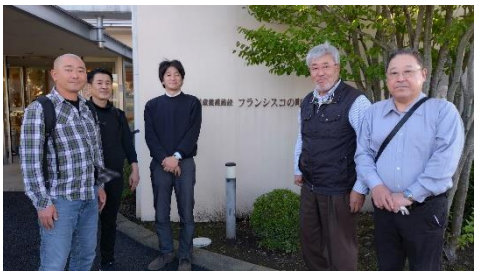
日　時：2024 年 10 月 30 日㈬　14 時 40 分～16 時 10 分
場　所：フランシスコの町
参加者：臂友幸、久保木雅彦、小野秀利、松浦大耕

施設長とのお話し

図書室

食堂

畑でお米を作っています



高崎市金古町の児童養護施設「フランシスコの町」の視察に行ってまいりました。はじめに施設長と 40 分ほどお話しをさせていただきました。この施設は全国から多くの支援をしていただいており、大変ありがたいのですが、子どもたちが支援に慣れてきてしまっているのが悩みだというお話しを伺いました。支援をしていただくのが当たり前ではない、いただけることに感謝の気持ちを持って欲しいということでした。支援というのは、お金や物だけではなく、心を育むことが一番大切だということを痛感いたしました。また、職員にはリフレッシュ休暇をとってもらう等、試行錯誤をして、定職率が上がってきたということでした。

その後は施設内を見学させていただき、子供たちと一緒に花壇に花を植えました。みんなとても楽しそうにやってくれて、子供たちの笑顔が大変印象的でした。

今回の視察は、実際に施設に行くことにより、多くのことを学び、感じた意義深い研修会でした。この経験を今後の支援活動に活かしていければと思います。　（報告書作成：松浦大耕）

児童養護施設８か所視察報告書

訪問先：児童養護施設　こはるび
参加者：　加藤・宮澤・塩谷・塩野

　僕たち４人はプリオパレスに集合して、下仁田の山奥、こはるびに向かいました。
こはるびは、平成24年に開設した、県内で一番山間の新しい児童養護施設です。
その施設は小規模ユニット性で、それぞれの建物がお家（家族）です。
施設のルールは最小限に留めており、職員と子どもたちでその家族をつくり上げます。
日曜日は遠いスーパーで食材を持ち寄り、平日とは違った家族の温かみを感じられます。

　夏休みには、地域のＮＰＯ法人が勉強を教えに来てくれます。まさに、日本の原風景を見ているようでタイムスリップしたようです。
イベントは餅つきやクリスマス会、ミニサッカー大会、道路清掃など充実しております。
　携帯電話は、高校生から施設で契約してくれたものを渡してくれます。

　令和 2 年頃から給付型奨学金が増額となり、大学や専門学校を希望する卒園生が増えてきました。直近では４人進学して、２人が１年も経たず退学しました。
卒園生の希望者は、女性はメイクやコスメ、男性はコンピューター関係（プログラマー）が人気だそうです。

　進学した方の意見を聞くと授業料は何とかできても、生活費はバイトで、夢に向かって勉強したいことがあっても、それどころではないそうです。
18 歳となり児童養護施設を卒園し、進学や社会に出て、打ちのめされた時に帰る家庭はありません。施設も毎年、職員が忙しく、その職員も不足しております。

　今年の24時間テレビで、児童養護施設のやす子がマラソンを走りました。そして、全国の施設へ多額の募金を支援されております。
施設の子どもたちは、全国民に児童養護施設を認知して欲しいとかではなく、ただただお金が欲しいかもしれません。図書カードも食事券もありがたいけど、自分で好きなものを買いたいんだと思います。

　施設職員のお話をお聞きし、耳を疑いました。我が子を虐待して施設に住ませておいて、その子の児童手当が支給されると、施設に来てお金を持って帰るそうです。

　施設訪問の最後に、エントランス花壇に子どもたちとパンジーを植えました。小学生の子どもが目をキラキラさせて、その花にジョーロで水を与えてました。
その姿を見て、なんとも言えない気持ちになりました。

　最後に伊勢崎ロータリークラブに入会させていただき、このような様々な気づきがあります。（まだまだロータリーはわかりませんが・・・）

（報告者：塩野　央弥）

児童養護施設視察（地行園）報告書

日　時：2024 年 10 月 30 日（水）　14 時 20～16 時 10 分
場　所：社福）上毛愛隣社　児童養護施設　地行園
参加者：多部田敬三、安部良憲、高橋弘幸　（敬称略）

廣瀬施設長との意見交換

施設内の視察

施設長の要望による児童とのふれあい

地行園の名前は、聖書「みこころが天に行われるとおり、地にもおこなわれますように」からとられたそうです。全国で 2 番目の孤児院として明治 25 年に創立され、定員 57 名に対し、現在 4 歳から 18 歳までの 45 名在園中。入園理由は、諸事情により家庭で生活できない子供たち（親の病気や死別、養育困

難・拒否、経済的理由・・・）近年虐待時（身体的、精神的、ネぐレスト、性的）が増加傾向との説明を廣瀬施設長から受けました。

職員は、46 名（常勤 33 名）3 交代のシフト制（早出・遅出・宿直）ですが、職員の処遇・ストレス等を背景に近年離職率が高く職員の確保が難しい現実があり、県に対して職員の処遇改善（特に賃金）の要望を行っているそうです。

施設内の物は、多くの寄贈等もあり十分満たしているとの回答があり、施設卒園生への支援（スーツ・家電・車・お金・・・）が重要。卒園者の約半数は、就職先・進学先を辞めてしまう傾向も確認できました。第二新卒者対応として多くの企業からの声掛けもあるが、卒園生の意識・意志の問題もあり、課題であるとの回答をいただきました。

今回の訪問で施設に対して協力可能なことを尋ねたところ、施設長より児童とふれあっていただきたいとの要望があり、4 歳から 5 歳の 4 名の児童と遊びを通じてふれあいをさせていただきました。

今回の施設視察を通じて、実際に訪問したからこそ感じた想いが強くなりました。継続した社会奉仕活動の重要性を改めて認識する機会となり、今後のロータリー活動の糧となった実のある視察となったことを報告させていただきます。

（報告書作成・写真：高橋　弘幸）

児童養護施設８か所視察報告書

日　時：2024 年 10 月 30 日㈬

訪問先：子持山学園

参加者：森田裕一、高橋郁夫、竹内健治

シオン棟　女子５名、男子１名

子持山学園の現状

【本園】7 ホーム 34 名（男子 15 名、女子 19 名）
まこと　女子６名
めぐみ　男子６名
のぞみ　男子４名
わかば　男子３名
ほし　女子４名
ひかり　女子４名、男子１名

企業理念「いと小さき者」への愛をの理念浸透に努めているお話しを聞かせて頂き、
社員一同子供達を救うためのミッションを持ち、関わっている施設と感じました。
今まででは聞けない内情や、「この施設がある理由などをお話し頂き」感銘を受け、
伊勢崎ロータリーがこれからもアシストできる新たな事があるねとメンバと話ができ
良い機会となりました。

報告書作成：竹内健治

伊勢崎ロタリークラブ 様　説明資料

令和 ６年１０月３０日(水)

社会福祉法人　子持山福祉会
児童養護施設　子持山学園
施設長　阿久澤　磨

１　県内児童相談所(中央・西部・東部・北部)の児童相談の状況　出典：児童相談所事業概要

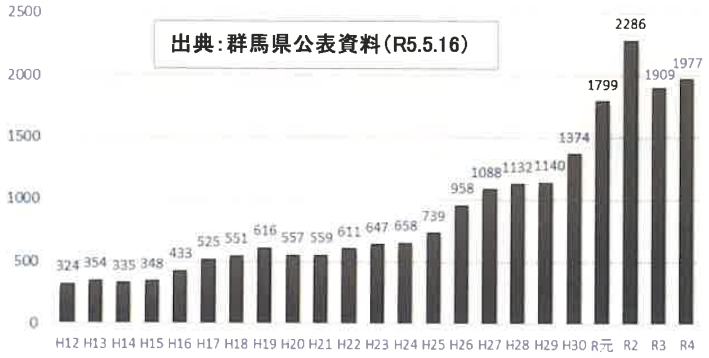
(1) 令和4年度の相談種別受付状況　※令和5年4月1日～ 北部支所⇒ 北部児童相談所

相談種別／年度		養護相談		保	心身障害						非行		育成				その	計
		児童虐待相談	その他の相談	健	肢体不自由	視聴覚障害	言語発達障害等	重症心身障害	知的障害	発達障害	ぐ犯行為等	触法行為等	性格行動	不登校	適性	育児・しつけ	その他	
県内児相		1977	1835	196	7	1	36	155	3115	678	288	64	629	205	227	1711	923	12,047
中央児相		676	309	11	1	0	2	38	1025	140	81	25	108	13	17	80	68	2,594
内伊勢崎市	R４	310	131	1	1	0	1	17	505	71	35	9	38	4	4	21	20	1,168
	R３	299	127	0	0	0	0	25	558	61	33	6	25	5	10	1	21	1,171
	R２	358	84	0	2	0	1	13	408	54	7	9	33	3	14	3	14	1,003
	R１	301	100	1	1	0	2	12	422	69	16	9	17	4	4	3	14	975
	H30	246	90	0	1	1	2	29	431	81	18	7	17	6	3	1	5	938

(2) 児童相談、児童虐待通告(相談)件数の推移

区分	H25年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	対H25年度比
３児相の全相談件数	9,389	10,137	10,531	10,584	10,901	12,063	12,047	128.31%
うち虐待通告件数	739	1,140	1,374	1,799	2,286	1,909	1,977	267.52%
虐待対前年度比	―	―	120.53%	130.93%	127.07%	83.51%	103.56%	

児童相談所の虐待相談受付件数の推移〔年度別〕



※ 件数は、通告(相談)受理件数です。
児童虐待が確認された件数では
ありません。

【H12.11.20　児童虐待防止法　施行】
■「虐待を受けた児童を発見した者は、・・・・・通告しなければならない。」

【H16.10. 1　同法一部改正法 施行】
■「虐待を受けたと思われる児童を発見した者は、・・・・・・・」

●H17. 4. 1から、市町村も児童虐待の通告先となる

(3) 児童虐待相談の主な経路別の件数、比率

警察	746	37.7%	家族親戚	131	6.6%
近隣知人	291	14.7%	医療機関	56	2.8%
学校	216	10.9%	児童本人	41	2.1%
児童相談所	211	10.7%	保育所、幼稚園、認定こども園	33	1.7%
福祉事務所	152	7.7%			

(4) 主な虐待者数

実父	834
実父以外の父	128
実母	907
実母以外の母	19
その他	89

(5) 年齢別の被虐待児数

０～２歳	391
３～未就学	513
小学生	706
中学生	259
高校生・他	108

２　家庭に代わって子どもを育てる【社会的養護】とは？

要保護児童（保護者のない児童や、保護者に監護させることが適当でない児童）を、公的責任で社会的に養育し、保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行うことです。

社会的養護は、「子どもの最善の利益のために」と「社会全体で子どもを育む」を理念として行われています。

要保護児童は、児童相談所がその家庭環境や児童の状況等を調査し検討し、家庭での養育が困難な場合に、里親か施設に養育を委託します。

令和4年度の(新規)社会的養護の状況

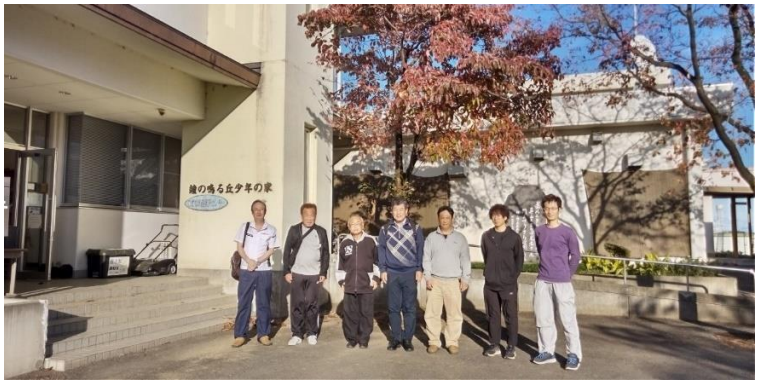
区分	施設	里親	計
児童虐待	41	12	53
その他の養護	29	11	40
ぐ犯行為等	5		5
触法行為等	2		2
性格行動	4		4
計	81	23	104

鐘の鳴る丘視察報告書

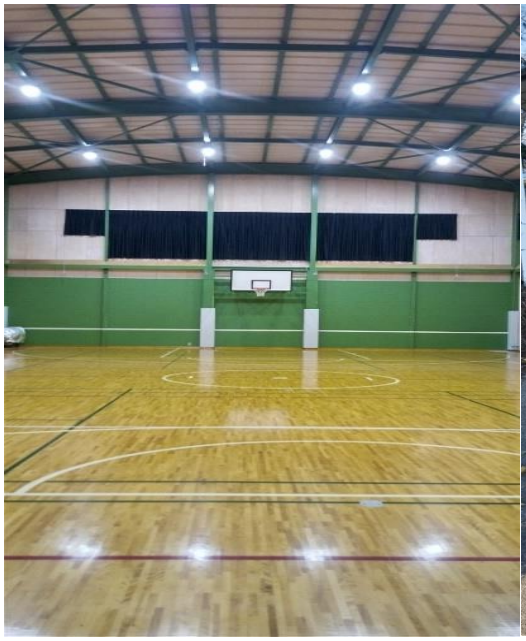
2024.10.30　ｐｍ14.30～16.00 訪問　　報告者　村岡
参加者　関リーダー　村岡　丸橋　新井
施設側　川上施設長　鈴木　雷
【面談】
　１企業に求める応援
　家庭電化製品、社宅
　２卒園予定者
　男性４名（1 名進学）女性２名
未来奨学金の説明
昨年度から群馬県の自立支援事業で卒園生との連絡人員（１名）
(ライン、メール)
　3　五万円の予算で必要な物
子供用自転車　衣類乾燥機　食洗器　洗濯機
　4　国の方針で定員減少
（民間委託・里親養育）
【感想】設備が老朽化しているとのことでしたが思いのほかていれが行き届いてました。
たかの友梨さんが寄贈した「体育館」と「レインボーハウス」どちらも素晴らしい建屋でした。
最後に清掃奉仕をして伊勢崎へ戻り子育ての難しさを痛感してます。

1　懇談中

2　集合写真



3　体育館



4　レインボーハウス

5　清掃活動

東光虹の家視察報告書

2024. 10. 30

まずは聞き取り調査と、小此木会長による当会員のパンフレット贈呈

その後、花植えをする小此木会長と峯岸パスト会長、下田さん

先日の30日に児童養護施設8ヶ所同時の視察会を行いました。その中の１つの東光虹の家さんに小此木会長、峯岸パスト会長、下田さん、岡部でご訪問して参りました。

最初にこちらの今回の趣旨と意図を小此木会長から説明してもらい、その後就職支援のお話から、パンフレットを贈呈させて頂きました。

ここで出たお話は、まずみらい支援金について、理事長さんから、過去に2つの国立大に合格した子が、入学金等お金に困っていたので、施設のから親御さんに連絡して、お金を出してくれる事になったのだが、当の本人がどうしても親を許せなくて、最後の最後まで拒んでいた。最後は支援してもらう事になったが、そういう事もあるのでみらい支援金は助かりますとのお話を頂きました。

次にみらい支援金を受給しているはるなさんのお話をカウンセラーの峯岸パスト会長からしてもらいました。峯岸さんから、一度食事をしたが、すごく明るい子で、多少悩みはあるものの、元気に明るくやってますと報告すると、理事長さんから、内気であまりしゃべらないのではないかというご質問が来ました。そこで峯岸さんから、全くそんな事は無く、たくさんおしゃべりをしてくれて、元気いっぱいでしたと報告すると。理事長さんも大変喜んでくれました。

裏面へ

お話が終わり、外へ出て、子ども達と一緒にプランターと花壇に花植えしました～

子供達と触れ合いながらの花植えはとても和やかで楽しい時間となりました。峯岸パスト会長も腰が悪い中、先頭きって作業して頂き、子ども達も本当に楽しそうで、とても有意義な時間となりました。

その後生活空間も回らせてもらい、ここでも子供達と触れ合いながらの見学になり、その中で時計が欲しいという話も出たり、こちらも貴重な時間を過ごさせて頂きました。

そして最後に会議室に戻り、帰りの準備の時間に、予定にはありませんでしたが、理事長さんとお話が始まりました。ここから理事長さんの過去の経験のお話が始まりました。

最近の子は、学校に行くのが絶対ではなくなっている。朝起きてから行こうかどうかを決めている子もいる。起きてきちんと着替えて用意ができた後でも、そこから今日はやっぱり休みますとなるケースもある。昔と感覚が変わってきているとの事でした。

次にご自分の経験から、産後ケアの事業を始めたそうで、今では予約でいっぱいの状況ですとの事。そんな中、過去に子供が生まれて、そのまま病院から施設に預けられたケースもあった。理由を聞くと、本人は保育士になりたいので、子育てしている時間が無いからという事だった。自分の子を育てず保育士になるのかと思うと切ない気持ちでいっぱいだったとのお話も。更に生まれてすぐに預けに来た親御さんと話をしていて、何とか家庭復帰をという話をしたら、私たちがいるからあなた達はお給料もらえるんでしょ！と言われた事もある。怒りを通り越して呆れてしまったというお話も出ました。

家庭復帰できる子もいるが、やはり大半は、なかなか難しい。親が渋る事が多い。が、卒園生に児童手当等使わずに、そのまま通帳に入れておいてあげていて、その通帳を親に見せると目の色が変わってしまうケースが、すごく多い。そのお金目当てに、復帰になるケースも少なくないとの事。まだ他にも話は出ましたが、全部は書ききれないの、この辺りにしておきます。

このようなお話は、伺って直接お聞きしないとなかなか伺えないお話でしたので、本当に貴重なお話でした。

児童養護施設の実態を少しだけですが、知りえる事が出来て、今回の視察会を開催して、良かったと実感致しました。今後もこのような事業が必要だと感じたと共に、物品だけの支援ではなく、心の支えや、気分転換となるような事業が必要だと、切に感じました。

ご参加頂いた皆様、本当にありがとうございました。

※最後に ICT 委員会の田中委員長が、視察会の皆様の写真をまとめて、QR コード作成してくれました。QR コードを読み取り、写真をご覧頂ければと思います。

田中委員長、当日の写真上映と、QR コード本当にありがとうございます^^

児童養護施設８か所視察報告書

日　時：2024 年 10 月 30 日㈬
訪問先：児童養護施設　希望館八幡の家
参加者：森田高史　原　敬　松島郁夫　唐沢かおり

定員　４６名　現在　３７名
幼児　５名　小学生１９名　中高１２名
職員数　６０名　２４時間３６５日
建物は立派で１世帯マンションの集合体。
小学生なら６名が１ユニットとして一緒に生活を送っています。
リビングあり、食事所あり洗面、風呂など普通にあります。ひと部屋２人使いで２段ベットでした。
食事は職員さんが手作り、洗濯掃除も職員さんの仕事です。
子供達は明るく、すすんで挨拶もしてくれます。
物理的にはとても恵まれている環境でした。施設長さんが『うちの子供より恵まれてますよ』と
おっしゃってました。
ただ、児童養護施設で生活出来る子供達はほんのひとにぎりであり、在宅指導などが多数である。
そして行政が気が付かない児童も居る。
＜親と一緒に暮らせない理由＞
　１ネグレクト　２心理的虐待　３身体的虐待　４性的虐待
児童養護施設にて高校卒業まで多くの大人に大切にされ生活を送っているが、卒業して急に自立してひとりで生活をしろと言われても心理的にも大変難しいのではないだろうか？
社会人となり働き出しても、困難に心が立ち向かうことが出来ない子達が多い、そもそも大人を信用していないと言う言葉が悲しかった。
私たち大人が何をしてあげられるのだろうか。やはり行政の手が離れる１８歳からの何年間をサポートする事がとても大切な事だと感じました。

（報告書作成：唐沢かおり）

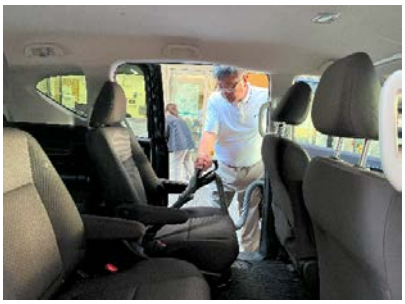
2024年10月31日

希望館訪問報告書

2024年10月30日水曜日、午後2時40分から4時10分、高崎市の希望館に須藤正也さん、新井龍一さん、浅野正史さん、五十嵐秀行で訪問して参りました。

まず、小椋里香施設長にお迎えいただき、2階の会議室に案内していただきました。早速挨拶しつつ、持参した会社案内と手土産をお渡ししました。席には資料が用意されていて、浅野リーダーから趣旨説明の後、施設長から施設や状況その他のご説明がありました。原則6人のユニットが5つあり各ユニットがひとつの「家」となっていること、1ヶ月ひとりあたり5万円でやりくりしていること、虐待を受けて入る子どもの多いこと、最近では中高生で入る子も多くその心の傷は回復に時間を要すること、性教育等学校では指導が難しいところまでなさっていること等ご説明がありました。こちらからの質問に対し「第二新卒」にあたる卒園生は5年に1人くらい、集団生活に慣れたがゆえに社員寮の方が向いている子もいる、人間関係を上手く築けるよう面倒を見てもらいたい子もいる、卒園後の生活に家財道具が用意できない子がいるので中古の家電等をなんとかしてあげたい、支援は布団を2セットを希望する、等の話がありました。

その後、施設内をご案内いただきました。アットホームな雰囲気の集団生活、大人が世話と保護している環境、各種配慮等がなされいることがわかりました。昔ながらの施設の印象が大きく覆りました。卒園後に向けての準備と卒園後の見守り等が重要ではないかと思いました。見学が終わり、施設の乗用車の内部清掃を子どもたちと行い、子どもたちから感謝の言葉をいただき、事業は終了となりました。



（報告者　　五十嵐秀行）